



やせ妊婦の妊娠中の体重増加は周産期予後に影響する

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松本, 雅子, 谷口, 千津子, 小田, 智昭, 成味, 恵, 磯村, 直美, 幸村, 友季子, 田村, 直顕, 内田, 季之, 伊東, 宏晃 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004033

第 45 回日本女性栄養・代謝学会学術集会

<一般口演 1>

やせ妊婦の妊娠中の体重増加は周産期予後に影響する

1 浜松医科大学産婦人科

松本 雅子

谷口千津子 1、小田智昭 1、成味恵 1、磯村直美 1、幸村友季子 1、田村直顕 1、内田季之 1、伊東宏晃 1

<目的>

近年やせ妊婦が増加しており、低出生体重児の増加との関連が示唆されている。やせ妊婦の妊娠中の体重増加が不良であると SGA 児を分娩するリスクが高いことが知られている。本研究では、やせ妊婦の中でも特に BMI の低い妊婦に着目し、妊娠中の体重増加が周産期の転機に関連するかを検討した。

<方法>

2009 年 10 月から 2020 年 6 月に当院で単体分娩し、妊娠前の BMI が 16 未満(WHO の基準：やせすぎ)の妊婦を対象とした。対象の妊婦を妊娠中の体重増加(5kg 未満,5-9kg 未満,9-12kg 未満,12kg 以上)で分類し、体重増加と患者背景(年齢,妊娠前 BMI,ART, 摂食障害)、周産期の転機(分娩週数,切迫早産,早産,出生体重,SGA,LFD,胎盤重量,分娩方法)が関連するかを Kruskal-Wallis 検定、 χ^2 検定、ロジスティック回帰分析、線形回帰分析を用いて検討した。

<結果>

対象となった妊婦は 64 人であった。年齢の中央値は 31 歳(18-41 歳)、妊娠前 BMI の中央値は 15.5(13.4-15.8)、体重増加の中央値は 10.3kg(0.2-20.2kg)であった。ART 妊娠は 9 人(14.1%)、摂食障害合併は 5 人(7.8%)であった。妊娠前の BMI と体重増加は関連していなかった。体重増加が少ない群では、ART 妊娠、摂食障害合併が多かった。体重増加が少ない群では、切迫早産、早産、低出生体重児、SGA、LFD、低胎盤重量が多かった。

<結論>

やせすぎの妊婦において、ART 妊娠、摂食障害の合併は妊娠中の体重増加が少ないことに関連していた。やせすぎの妊婦でも体重増加があれば周産期予後は良好であった。妊娠中に適切な体重増加を保つことの重要性を、生殖年齢の女性や医療従事者が共に認識する必要がある。